

<p>学校教育目標</p>	<p>未来に向かって 学び続ける</p>	<p>経営理念</p>	<p>&lt;誇れる乃美尾小教育の創造&gt;                  【めざす学校像】 感動のある学校～楽しい・やさしい・元気な学校～                  【めざす児童像】 豊かな感性をもち、のびゆく子                  「自ら学び 粘り強く取り組む子」「人や環境を大切にし 感謝できる子」                  「命を大切にし 健康で安全な行動ができる子」                  【育てたい資質・能力】『言葉の力』『思考力』『主体性』『感性』                  【めざす教職員像】 教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教職員                  「子供に寄り添い、学び続ける教職員」「組織の一員として協働する教職員」「信頼される教職員」</p>
---------------	----------------------	-------------	--

評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
確かな学力	1	○基礎学力の向上と主体的に学習に取り組む態度の育成	○児童一人一人の伸びを見据えた基礎学力の向上 ○主体的に学び「わかる」「できる」喜びを感じる算数科の授業改善 ○学びに向かう意欲の向上	・問題解決学習型の授業のモデル化 ・ノート・板書の書き方の統一 ・多様な数学的表現の場の設定 ・「めあて」と「まとめ」の整合性 ・はなまる朝会での算数科スキルの向上 ・学力が低位・中位の抽出児童の実態把握 ・「サポートシート」の作成 ・低位・中位の児童のつまずき解消のための具体的な手立て ・協働的な学び合いの場の設定	・算数科単元末テストで、到達率70%以上の児童の割合 ・標準学力調査において、全国正答率よりも20%以下の児童の割合 ・学ぶ喜びを感じた児童の割合	85%以上 20%以下 85%以上	89.2% 12月実施予定 97.8%	100%	4	・単元末テストの到達率の平均は89.2%であった。昨年度末と比べると5.7%増えており、児童の実態に応じた学びを設定することで、到達率を上げた児童が多かった。はなまる朝会や計算コンテストを活用し、学習した内容を確実に習得できるようにしていきたい。 ・算数科の授業において「わかった」「できた」と考える児童は97.8%おり、昨年度末と比べると0.2%増えた。児童の特性や実態に応じた学びの視点を取り入れた授業づくりの成果が表れてきたと考える。否定的な評価をしている児童は学力が低位な事が多い。これからは、サポートシートをより一層活用し、個々に合った手立てを考え、指導を行っていきたい。	A	・児童の特性や実態に応じた学びを設定したことで、到達率が上がり成果が出ている。 ・好結果が得られた要因を振り返り、維持されるようお願いする。 ・算数科だけでなく他の教科にも個に応じた指導をお願いする。 ・つまずきのある児童に対して具体的な手立てが急がれる。	・はなまる朝会を週2回行い、基礎学力の定着に取組む。計算コンテストでは計算技術の定着を図り、全員が1級合格ができるようにする。 ・サポートシートの加筆・修正を行い、授業の中での手立てを考え、指導を行っていく。タブレットのドリルも進んで取り組むように指導する。	
豊かな心	2	○ルールやマナーを守り、人や環境にやさしい児童の育成	○東広島スタンダードを基盤とした生活重点目標の習慣化と徹底	・月一回の朝会での啓発活動。 ・一斉下校時の確認と評価。 ・大休憩後の確認と評価。 ・前期・後期のあいさつ名人の表彰。 ・登下校時のあいさつ指導。 ・下駄箱の靴がいつもそろっている学級や児童を紹介する。また、トイレスリッパのそろい具合を数値化し、放送で紹介し、全校でできたことの喜びを共有する。 ・児童会と連携し、児童自らの取り組みとして活動させ、評価させるような工夫をしていく。	・元気なあいさつ、返事ができる児童の割合 ・はきものをそろえることができる児童の割合 ・「あいさつや返事ができている」「学校や家庭の約束(きまり)を守って生活している」(保護者アンケート)の肯定的評価	80%以上 90%以上 80%以上	90% 98%	100%	3	・児童の自己評価で、あいさつができていると肯定的な評価をした児童は90%であった。校内でのあいさつは、朝、廊下で出会ったとき、教室に入る時など、よく声が出るようになっている。しかし、地域でのあいさつはまだまだ声も小さく、課題である。学校、地域が一体となって取り組むような手立てを考えていく必要がある。 ・はきものそろえについては、98%と高い評価になっている。靴箱も、トイレのスリッパも乱れは少ない。気持ちの乱れがはきものそろえに出るので、引き続き声かけをしたり、認めたりしながら、よく見ていきたい。 ・保護者アンケートは内容の検討中のため、今年度は1月に一回実施する予定。	B	・地域の大人から積極的に声かけをして、挨拶をするように地域課題として投げかけることも必要。 ・地域でも元気な挨拶ができるよう挨拶運動に取り組んだり、地域の方々にあいさつ名人を選んでもらったりといった取組を行っていく。 ・「地元の方に守っていただいている」ことが良く分かれば、地元の人に挨拶しやすくなる。 ・地域でのあいさつ名人を呼びかける方法もある。	・児童会主導の「乃美尾地域のキャッチフレーズを考えよう」の取組を突破口に、地域との連携を強め、地域と児童が一体となって挨拶運動に取り組んだり、地域の方々にあいさつ名人を選んでもらったりといった取組を行っていく。 ・「地元の方に守っていただいている」ことが良く分かれば、地元の人に挨拶しやすくなる。 ・地域でのあいさつ名人を呼びかける方法もある。	
健やかな体	3	○命を大切に、安全な行動と、健康でバランスのとれた体力・運動能力を向上させようとする意欲と実践力の育成	○粘り強く体を鍛え、体力・運動能力の向上 ○外遊びの励行	・毎月、進行状況を報告し啓発 ・年間を通して、体育科の授業等で縄跳び(前跳び)の実施 ・自発的に外で遊べる時間を設定 ・体育朝会及び遊び朝会で遊具や運動具に親しむ機会の確保 ・体育朝会で日頃の練習の成果を披露する場の設定(縄跳び) ・縄跳びチャレンジウィークの実施 ・達成者の掲示や放送での紹介	・縄跳び前跳び(低…30秒間、中…1分間、高…1分30秒間)跳び続けられる児童の割合 ・休憩時間に外遊びする児童の割合 ・「運動や外遊びができている」(保護者アンケート)の肯定的評価	80%以上 90%以上 80%以上	70% 91%	95%	3	・体育科の授業や夏休みの課題などを通して、学校や家庭で継続的に縄跳びに取り組み、目標を達成する児童が増えている。今年度は、10月に縄跳びチャレンジデーを設け、目標達成に向けて取り組んだ。達成者の掲示や放送での紹介もできている。継続して取り組み、目標を達成する児童を増やしたい。 ・昨年度、身についた外遊びの習慣を継続できている。暑さを心配しながらだったが、水分補給の声掛けや時間の短縮などをしながら、外遊びを実施することができた。これからも、外遊びの習慣を継続できるよう、声掛けを続けて行いたい。	A	・本校の特徴といえる学年を超えて遊ぶ児童が多いことは大変意義あるものと考えられる。 ・これからも新しいことにどんどん挑戦してほしい。 ・学校や家庭で縄跳びを今後も継続してほしい。	・体育科の授業だけでなく、縄跳びがんばりカードを冬休みの課題として家庭でも継続的に取り組むようにする。 ・1月に縄跳びチャレンジウィークを設け、目標達成に向けて取り組む。 ・外遊びの習慣を継続できるよう、声掛けを続けて行う。 ・達成度を全校で共有する機会を増やす。	
学校づくり	2	○信頼される学校づくり	○保護者・地域連携と学校の取組の積極的発信 ○働き方改革の推進	・コミュニティスクールとしての使命と取組の充実 ・地域や保護者へのタイムリーな情報発信 ・授業の充実、子供と向き合う時間の確保のための業務改善や働き方の見直し ・退校時刻と時間外勤務短縮の意識化	・学校と地域との連携・活動の実施 ・月1回の発行とめざす「学校像・児童像」をとらえた記録の定期的な地域掲示 ・業績評価における教職員自己評価平均	4回以上 12回以上 3以上	地域連携4回実施 情報発信6回 3.05	100%	3	・地域連携については、3年生の黒瀬高校(手話体験)計、5年生の田植え、稲刈り、6年生の用水路見学の4回を計画的に実施することができた。 ・「ふれあい館」への掲示を毎月1回実施し、学校だよりを6回発行することができた。 ・昨年度から続けている時程の改善による休憩時間の確保、留守番電話などの業務改善への取組が成果を上げてできていると考える。	A	・目標達成に向けて、個々の教員が何をすべきか何ができるかといった点を見える化できるとよい。地域、保護者、行政の役割も見える化し共有できるとよい。 ・学校と地域との連携活動が増えていることで課題解決や取組に協力しやすい。 ・体験学習は視野を広げる必要がある。今後の年間体験活動を考慮し、活動内容や人材を考えてほしい。 ・校務分掌や部会についても効率化を図るための改善を進めてはどうか。業務改善についてさらに進めてほしい。 ・学校で対応案件でないものは整理し対応されたら良いと思う。	・来年度に向けて、年間体験活動計画を作成し、組織的な取組につなげる。 ・教職員アンケートで出された改善案等を企画委員会などで検討し、実施に向けて取組を進めることで、さらなる改善を図る。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価  
 4...目標を上回って達成  
 3...目標どおりに達成  
 2...目標をやや下回って達成  
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価  
 A...とても適切である  
 B...概ね適切である  
 C...あまり適切でない  
 D...全く適切でない  
 (N...判定できない)